

機関番号：14401  
 研究種目：研究活動スタート支援  
 研究期間：2009～2010  
 課題番号：21820022  
 研究課題名（和文） 雑誌メディアによる18世紀的信息空間の変容  
 研究課題名（英文） Periodical Journals and Modification of Information-Sphere of 18th century Germany

## 研究代表者

吉田 耕太郎 (YOSHIDA KOTARO)  
 大阪大学・文学研究科・准教授  
 研究者番号：40551932

## 研究成果の概要（和文）：

18世紀のモード雑誌の内容を分析することで、18世紀の情報空間が、学術知識や有益な情報を伝播するものから、モードのような一過性の情報を提供するように変化してきたことを確認することができた。また情報の宛先として、学者や専門家ではない、一般の市民が設定されていたことも明らかになった。その背後には、モードの担い手としての市民層の台頭、市民層の識字率の上昇などがあった。

## 研究成果の概要（英文）：

By analyzing the contents of the mode journals of 18th century Germany, it became clear that the characteristic of the Information-Sphere of 18th century had changed. Through the mode journals the transitory information as mode had been spread widely. The receiver of that information had changed to the bourgeoisie without special knowledge, who also shouldered the new mode of 18th century.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,070,000	321,000	1,391,000
2010年度	960,000	288,000	1,248,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,030,000	609,000	2,639,000

研究分野：人文・社会

科研費の分科・細目：ヨーロッパ文学(英文学を除く)

キーワード：ドイツ文化史、18世紀、モード、啓蒙、ドイツメディア史

## 1. 研究開始当初の背景

本研究代表者は、これまで18世紀ドイツの啓蒙思想について研究してきた。啓蒙思想のなかでも大きな役割をしめてきたのは、民衆への啓蒙であった。民衆啓蒙において大きな役割を果たしてきたのが、雑誌メディアであ

った。ただしこうした雑誌メディアでは、正しい知識や有益な情報だけが掲載されていた。こうした啓蒙のメディアが時間とともにどのように変化するのかに関心を抱いたのが本研究を着想するにいたった直接の背景である。

雑誌メディアのなかでも18世紀後半に新たに誕生したものとして、モード雑誌があった。モード雑誌についての研究は、フランスが中心となっており、ドイツでの研究は非常に限られている（申請書に記載したとおり）。またこれまでの研究の主流は、文字通り、服飾史をはじめとするモードそのものの歴史の点からおこなわれるものであって、モード雑誌に掲載されている情報そのものを歴史的な視野から考察することもなく、またモード雑誌を同時代の他の雑誌メディアと比較することも皆無であった。

このような先行研究の状況を整理した上で、本研究では、モード雑誌を、純粹の情報の媒体として考察する必要があることを課題として認識することから出発している。それはつまり、掲載されている情報のタイプの歴史の変遷、また情報の発信者それから受け手の特定、モード雑誌の出版にかかわるプロセスや人物の特定など、情報メディアであるモード雑誌をとりまく基本的な情報をひとつひとつ明らかにしていく必要があるという認識から、本研究はスタートしているのである。

## 2. 研究の目的

正しい知識や有益な情報を伝える雑誌メディアが、それ以外の情報を伝えるようになる時、メディアはどのように変質するのかまたその情報空間はどのように変容するのかを明らかにすることが本研究の目的であった。

印刷メディアを媒介に流通する情報もまた、時代や地域によって変化している。とりわけ、18世紀ヨーロッパでひろくおこなわれていた啓蒙運動・啓蒙思想のもとでは、情報は有益な情報、つまり真理であった。

しかし識字率の向上による読者層の拡大、また書籍の安価で確実な流通、図書館の前身となる貸本屋や会員制の読書協会のような施設の拡充とあわせて、印刷メディアがひろく一般化しはじめると、印刷物には必ずしも有益な情報や真理が掲載されただけではなく、単純に娯楽を目的としたような、読み捨てられるような印刷物も徐々に出版されるようになってきた。こうした時代の変化を象徴していると考えられるのが、モード雑誌であった。流行という一過性の情報を載せるモード雑誌を研究対象と据えることで、18世紀後半に生じた、情報空間の変容を具体的に明らかにすることが本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

情報空間の変容を端的にしめしているメディアとして着目したのが、モード雑誌である。モード雑誌は、ただしい知識や有益な情報ではなく、モードという一過性の、時間が過ぎるともはや必要となくなる情報であった。上記研究の目的をはたすために、本研は、モード雑誌の分析を中心にすえた。

モード雑誌の分析をおこなう前に、予備的な作業として資料の収集をおこなった。

### ① 一次資料であるモード雑誌の入手

ドイツの大学図書館にマイクロフィルム・及びコピーを依頼した。完全ではないが、ドイツではじめて発刊されたモード雑誌である *Journal des Luxus und der Moden* については、完全ではないものの、1820年代までのコピーを入手した。18世紀後半の情報空間の変容を明らかにする上で、1820年代の資料で十分対応可能である。またモード雑誌の資料として貴重な彩色銅版画についてもあわせて複製を入手することができた。

### ② 研究文献の入手。ヨーロッパのモード雑誌の歴史について扱ったものをひろく収集した。

### ③ *Journal des Luxus und Moden* の編集者であった、ヴァイマルの企業家ベルトゥーフについての研究がドイツではすすめられており、このベルトゥーフの研究についての成果の収集もあわせておこなった。

このような予備作業をおこなったうえで、モード雑誌の分析に着手した。分析をすすめるにあたり、入手できた限りの記事について、扱われているキーワードのタグ付けを行い、簡易的な目録作りをおこなった。この目録作りの過程で、ドイツのイェーナ大学で、本研究ですすめてきたような、モード雑誌の内容のタグ付けをおこなう研究プロジェクトが始動していることを知り、イェーナ大学の研究成果も利用することが可能となったことで、本研究の進度もあがったことを付け加えておきたい。

記事の分類がおわった段階で、まずは、読者層を特定できるような記事を優先的に選んで分析をすすめた。なかでも注目に値するのは、女性それも結婚したばかりないしは子どもを生んだばかりの女性を対象とするような記事が多く含まれていることがあきらかになってきた。モード雑誌の読者として、女性それも比較的若い女性が読者として想定されていると、予想を立てた上で、あらため

て女性を対象としている雑誌記事にしぼって記事を分析し、その内容を整理してみると、モード雑誌のなかには、社交の場での振る舞い方、子どもの育て方、とりわけ母乳育児のすすめや、子どもの養育の仕方などが連載されていることも明らかとなってきた。こうした雑誌記事の性格から、モード雑誌が単に着衣の流行だけを伝えたのではなく、生活一般を扱う、現在の婦人雑誌のような総合雑誌てきな性格をもつものであることもあきらかになってきた。

銅版画についてもまた、タグ付けをおこなったが、衣服やアクセサリと並んで、調度類や照明器具、壁紙などの流行をつたえる銅版画も数多く含まれていることがわかった。このような調度類をあつかった銅版画の存在もまた、読者が、家庭の主婦であることを考え合わせると整合性が認められる。

本研究で中心的にあつかった資料である Journal des Luxus und der Moden に関しては、研究史料をよみあわせることで執筆陣の特定もあわせておこなうことにした。とりわけ編集者で出版者のベルトゥーフという人物については、これまであまり顧みられることのなかった人物である。しかし調べてみると、彼は複数の企業を運営する企業家であり、当時のヴァイマルの市民の1割もの市民が彼の企業で働いていたとの証言ものこされていることがわかった。このようなわけで、本研究では、このベルトゥーフについての調査もあわせて行うことにした。

#### 4. 研究成果

18世紀の情報空間が、学術知識や有益な情報を伝播するものから、モードのような一過性の情報を提供するように変化してきたことを確認することができた。これまで、啓蒙思想を、雑誌メディアと結びつけて研究されることはなかった。また啓蒙という思想が、どの段階で終息し、それがどのような思想へと引き継がれていくのかという点についてもまた、海外を含めて研究はほとんどなされてこなかったことを考えるならば、モード雑誌のような一過性の情報を伝える雑誌が19世紀末に大量に出版されるようになったことは、メディア史という領域から、啓蒙思想の終息という思想史の問題に寄与できることになると期待している。

本研究によってモード雑誌の読者層として若い女性の姿が浮かび上がってきたのは、大きな成果であった。この研究成果は、とりわけ、18世紀後半の市民層研究に接続するも

のである。モード雑誌の読み手であった女性は、当時経済的な力を伸ばしつつあった富裕市民層の家庭を支えた女性であった。彼女たちは、家の外で生業に従事する男性を支える妻であり、同時に、子どもたちの養育を担う母であった。モード雑誌のなかには、家の調度についての話題、また、母乳育児や望むべき子供服のありかたなどを論じた記事が収録されている点も、この女性という点から合理的に説明することができることになる。モード雑誌の分析から明らかになるのは、市民階級に属する妻であり母としての役割を担い始めた女性があらわれはじめたということ、さらに踏み込んだ表現を使うならば、ここには近代的な家の成立を読み取ることが可能である。

本研究は雑誌メディアであるモード雑誌の分析およびそこから得られる結果にのみ研究の主軸をおいてきたわけであるが、今後は、啓蒙思想の終息をみきわめるためには、雑誌メディアとしてのモード雑誌以外にも調査対象を広げることが必要である。またモード雑誌の記事のなかで、読者としての女性と関連して、子どものモードについての記事が多いことにも興味を抱いた。雑誌メディアの対象を、児童文学のような子どもを対象としたメディアにも広げていくことで、18世紀末の子どもをめぐる世界も明らかにすることができるのではないかと、新たな研究課題の設定の可能性を模索している段階である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- ① 吉田耕太郎「啓蒙の時代の啓蒙への問い」『啓蒙の運命』(名古屋大学出版会)2011年pp. 12-38. 査読有
- ② 吉田耕太郎「文化としてのシレジア」『独文学報』(大阪大学ドイツ文学会)2010年pp. 121-137. 査読有

〔学会発表〕(計1件)

- ① 吉田 耕太郎「18世紀の子ども—モード雑誌のなかの子どもの記述を例に」阪神独文学会〈大阪大学〉、2011年4月3日

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

吉田 耕太郎 (YOSHIDA KOTARO)  
大阪大学・文学研究科・准教授  
研究者番号：40551932

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし